○委員長（井上宜久）

引き続き、議案第16号 平成26年度開成町後期高齢者医療事業特別会計予算を議題とします。

早速、後期高齢者医療事業特別会計の歳入歳出予算について、詳細質疑を行います。

質疑をどうぞ。

高橋委員。

○2番（高橋久志）

75歳以上の関係で、後期高齢者医療制度が導入されているわけでございます。広域連合という形で運営しているわけですけれども、予算の関係でいえば、保険料が窓口として開成町でやっているわけですけれども、一応、説明は聞きました。これに伴って保険料が値上げの形が広域で決まって、やらざるを得ないと、こういう話が実はございます。神奈川県下の状況の説明もございましたけれども、開成町の状況というのは、これについては、どのぐらいの位置、範囲を示しているのか、改めて、その辺を含めて説明をいただきたい。保険料を納めるのが大変だという状況もありますので、金額が提示されておりますけれども、8,936万8,000円出されておりますけれども、その辺をお願いしたいと思います。

あと、もう1点。政策的な関係で、今年度の予算、前にもお話しした経過がございますけれども、この辺について検討がなされたのかどうか、確認も含めて質問させていただきたいのは、人間ドックの関係については後期高齢者については認めていないと。それは、健康づくりの関係からいっても認めるべきだと私は持論を持っておりますし、葬祭費についても国民健康保険では7万円を支給しているのですが後期高齢者は出されていないと。まちづくりの一環として、きちんとした政策を持って、これらに対応してもいいのだろうという私の考えを持っています。今回の予算ではそれが見えないのですけれども、今後は検討する余地があるのかどうか、聞かせていただきたい。

○委員長（井上宜久）

保険健康課長。

○保険健康課長（田辺弘子）

では、ご質問にお答えします。

開成町の後期高齢者の状況はというところでございますけれども、25年の3月末で1,533人ということで人数になっております。こちらの26年度予算につきましては1,660人ということで、広域が伸び等を見込んだ中で試算した人数でございます。1人当たりの賦課額で見ますと、25年度ですと9万4,691円ということで、県が10万4,596円ですので、1万円ほど1人当たりの賦課額としては町が低いような状況になってございます。

また、保険料というところで考えたときに、国民健康保険と同じように低所得者に対しての軽減措置という形で後期高齢者医療のほうもございまして、軽減

の方の受けている人数としては、23%ほどの方が軽減を受けているような状況になってございます。その前の年、23年で見ますと20%程度でしたので、やはり低所得者の方々が増えて軽減を受ける方たちも増えているというような状況でございます。

あと、二つ目の質問、人間ドック等に関してでございますけれども、今まで後期高齢者医療制度については、25年度で制度改正があるのではないかとというようなところで、ずっときていたわけでございますけれども、国民会議の結果を受けて、その後、存続という形で、この制度は継続するという方向性が出ました。25年度までというところの制度というところで踏まえておりましたので、保健事業等、具体的には人間ドック等の部分については計上してこなかったというところがございます。

ただ、25年度から高齢者肺炎球菌をスタートしましたので、その分の75歳以上の方を対象にしているというところで、後期高齢者広域連合に補助金の申請ということで、保健事業の経費というような形で3分の1程度補助を受けております。ほかに、高齢者を対象にしている健康診査に関しても補助をいただいているというところがございます。人間ドックにつきましては、制度が改正になるかもしれないというところを踏まえて、今まで具体的なことはお示ししておりませんでしたけれども、町民の健康づくりというところでは、一つ、そういう方法も検討・研究する部分なのかなというところはございますので、先々、検討していきたいというふうには考えております。

○委員長（井上宜久）

保健福祉部長。

○保健福祉部長（草柳嘉孝）

後期高齢者の保険事業につきましては、大原則的には保険者サイドが責任を持つてということですから、広域連合が責任を持ってやるという話になっています。ただ、その中で、やはり広域連合には手足がないですから、市町村が何らかの補助金をもらいながらやるということになっていますので、今、お話しの肺炎球菌とかは広域連合の補助を受けながらという、あと健診ですか、そういう形に一応なっています。今後的には、そういった広域連合が出す補助金、保健事業に出す補助金を使いながら何らかの対応ができれば、それが一番いいと考えております。

ただ、全体的な中で、人間ドックを県下全体の、やるのなら横浜から全て、清川村まで一緒の制度が大原則ですから、人間ドックもやるという方向になると思うのですけれども、現状では、やるということになりますと、保険料に当然そこは、はね返ってきますから、広域連合では現状で見送っているというのが状況であります。

以上です。

○委員長（井上宜久）

ほかに、ありませんか。

(「なし」という者多数)

○委員長(井上宜久)

ないようですので、以上で議案第16号 平成26年度開成町後期高齢者医療事業特別会計予算について、質疑を終了します。

暫時休憩いたします。再開を15時55分に行います。

午後3時40分